

事業所名

児童発達支援・放課後等デイサービス

オアシス

支援プログラム

作成日

2025 年

1 月

6 日

法人（事業所）理念		事業所：1. 社会性を身につける 2. 居場所になる 3. 保護者にも寄り添う					
支援方針		<ul style="list-style-type: none"> ○ 順番を守る、我慢をする、挨拶をする、相手を思いやるなど社会性を身につける ○ 利用している子どもはもちろん家族の居場所になる ○ 利用者にも保護者にも寄り添う 将来を見据えた能力を伸ばすように支援する					
営業時間		10 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	健康な生活習慣の促進や日常生活における基本的な動作や自立を促す <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活動作及び手段的日常生活動作の獲得 ・定期的な心身の把握(毎日の観察・面談など) ・食事のマナー、身だしなみ、トイレの排泄など身辺自立の向上 ・危機認知スキルの向上(疑似体験、SST) 					
	運動・感覚	感覚の特性への対応を支援し、日常生活や学習活動における支障を軽減し自己肯定感を高める <ul style="list-style-type: none"> ・座る姿勢、文字を書く時の姿勢の確認、保持 ・リズム遊び、感覚教材、散歩、工作、いろいろな道具の使い方等 ・触覚や人との距離を身につけられるようなボディーコントロールを促した活動 					
	認知・行動	発達レベルに応じた学習の支援、認知の偏りに対する予防と状況に合わせた対応力を養う <ul style="list-style-type: none"> ・小集団での活動や遊びのなかで、適切な行動を習得する(認知の偏りに配慮する) ・こだわりや偏食に対応する ・成功体験だけではなく失敗体験も積ませることで、失敗に対して対応できる柔軟な心を身につけられるようにする ・空間、時間、数の概念など認知発達を促す環境設定(スケジュールや時間の視覚化) 					
	言語 コミュニケーション	適切なコミュニケーション能力の獲得や社会生活における関係性の向上を活動プログラムを通して養う <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や場面に合った言葉使い、人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 ・特性に応じた読み書きや相手への伝え方の向上を支援 ・トラブルが起きた時の問題解決や感情のコントロールの仕方を支援 					
	人間関係 社会性	ルールに合わせた行動等、他者との関係の向上を図り、社会生活における適応力を養う <ul style="list-style-type: none"> ・小集団、集団での遊びやゲームを通して人との関わり方や接し方を学ぶ ・社会体験や地域交流の場を設ける ・自己理解、他者理解への支援 (SST・社会体験) 					
家族支援		・保護者面談をし、子育てに関する悩みなどに関して、事業所での様子などの情報交換と、それらをふまえたうえでの助言・相談を行う ・お子様との関わり、兄弟に関すること等様々な不安や困りごとに寄り添い、相談や助言を行う		移行支援		ライフステージの切り替えを見据えた将来的な移行に向けた準備としての支援を行う。 主にコミュニケーションへの支援を、集団での活動を通して支援をし、より多くの人と関わることが出来るよう支援を行う。	
地域支援・地域連携		・相談支援事業所や障害福祉サービス事業所との連携 ・学校や併用利用先との情報共有		職員の質の向上		必要に応じて、公的な外部研修に参加し、それらの内容を社内のスタッフに伝達する社内研修を併用しながら、スタッフの知識と技術向上を図る	
主な行事等		・季節の行事（お花見、海水浴、ハロウィン、クリスマスなど） ・季節の製作 ・社会見学 ・防災訓練					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービス オアシス			公表日		2025年 3月 3日	
		チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		1		新しく入って来た職員にも早い段階で参加できるよう臨機応変に開催出来るようにする	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			個別面談やミーティングをしている		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4		1			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5					
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		1			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		1		新しく入って来た職員にも早い段階で参加できるよう臨機応変に開催出来るようにする	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		1			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		1			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5					

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5				
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2			終了後に参加できない職員がいるため、次の日になってしまう
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5				
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		1		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	4		1		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5				
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		1		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		1		・やり取りができる職員と出来ない職員がいるので、全員ができるようにしていく ・学校長より連携を断られたケースがある
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4		1		大体の学校とは出来ているが、連携を断られた学校とは保護者との連絡調整しかできない
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		4	1		児童発達対象の利用児がまだいないためこれからの取り組みとなる
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4		1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4		1		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		5			学童との交流はまだない
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	3			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		1		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		1		
保	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		1		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	2		3		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		1		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		1		

護 者 へ の 説 明 等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	4	1		これから開催する予定
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5			
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	1		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		5		これから実施する予定
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		5		これから実施する予定
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4	1		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		5		医師からの指示書がもらえるといいが、保護者からの申告のみとなっている
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4	1		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4	1		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5				

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス オアシス		
○保護者評価実施期間	2025年 2月17日		2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2025年 2月17日		2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者の自主性の尊重	本人主体の支援を心がけ、日々の中でヒアリングを行うようにしている	利用者発案のイベントの機会を設けることも検討中
2	保護者や学校、関係機関との情報共有、意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・些細なことでも、子どもの様子を保護者や学校、関係機関と共有しながら、支援の改善を行っている。 ・LINEアカウントを用いて連絡を取りやすくしている 	保護者と職員のコミュニケーションが取れる機会を増やせるようなイベントを開催したい
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	BCPや避難訓練などの取り組みの周知	保護者への周知不足	HPやSNSなどを用いて、訓練の様子などを公開する
2	地域住民や他の子どもとの交流	地域住民との交流する機会がなく、他の子どもとの交流も少ない	地域のイベントや他の子どもたちとの交流できるイベントを検討する
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス オアシス
------	------------------------

公表日 2025年3月3日

利用児童数 2025年2月28日現在 7

回収数 5

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	5					
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	3			2		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	3			2		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	5					
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	5					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	5					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	5					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	5				以前に比べ子どもの様子が変わり良かつた	これからも個々に添った支援をしていきたいと思っています。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	3	2			PCメインで時々作業もしている	今後、いろいろなプログラムを取り入れていきたいと考えています。
保 護 者 へ の 説 明 等	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3		1	2	他の子との交流になれるような機会があればいい	検討していきます。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	3	1		1		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	5					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	5				機会があれば参加したい	定期的な開催を検討しています。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	3	1	1			
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	5				土・日・祝日に開催してほしい	開催を検討中です。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	5					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	5					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	4			1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	4			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4			1		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4			1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	5					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	4	1			お友達と一緒に下校をしたがっているが、家で一人にするのが不安	
	29	事業所の支援に満足していますか。	5					

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年2月16日

事業所名 ワークショップオアシス

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	手すり等の設置はしているが、バリアフリーの空間とはなっていない。	利用児童のADLに合った環境整備やバリアフリー化の実施を検討していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	実施していない。	
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	注の行動の把握のため、ASA(児童行動評価)の導入を目指して、職員研修を実施している。	実際の支援に導入できるレベルまで習得していない。アセスメントや支援内容として取り入れる必要がある。引き続き、研修を実施し、ASAを有効に活用し行動の改善効果のアセスメントツールの活用につなげていきます。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			

適切な支援の提供	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○			医療的ケアが必要な児童については受け入れできる体制ではない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○			医療的ケアが必要な児童については受け入れできる体制ではない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			
関係機関や保護者との連携	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			参加していない。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			保護者からの依頼があった場合には、外部の機関と連携して支援できるように検討していく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のわらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	35	父母の余の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			保護者会のようなものは組織としてない。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	38	個人情報取り扱いに十分注意している	○			
保護者への説明責任等						

児童福祉施設 の 取組	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		財団法人支援人と連携して、地域の行事に参加等している。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			

就労継続支援 A 型事業所における地域連携活動実施状況報告書

事業所名	ワークショップオアシス
住 所	金沢市みどり2丁目6番地5
電話番号	076-249-0061

事業所番号	1710104199
管理者名	東谷 康代
対象年度	令和5年度

地域連携活動の概要

<活動内容>	<活動の様子>
<p>令和4年5月よりオリーブの苗木の栽培と販売を開始 地元企業と連携し、農福連携と自社製品の生産を開始することで、作業内容の多面化に取り組みました。また、本年度は、自社での苗木を増やすことにも取り組みを行いました。今年の冬は、厳しいものでしたが、挿し木をするための温度としてはとてもいいものでした。 (雑菌等の繁殖を抑えることができるため)</p>	 
<p><目的> 毎年、苗木を生産できる体制の構築と苗木の育成状況を変化させることで、大きさの異なる苗木の栽培に本年度は注視を行った。 大きさを異なる苗木を生産、販売できる体制を今後構築し、一般のお客様だけでなく、業者間での販売が可能となるように生産体制の強化を図っていく。</p>	 
<p><成果> 本年度は、農園での出張販売も行ってきましたが、販売は好調ではなく、試験的に生産したローズマリーの苗の販売が好調でした。 オリーブと比べると単価が低いため、ハーブの苗を中心に販売、生産することはできませんが、取り扱う種類を増やしていくことも大切になると感じた。繰り返し、出張販売等を継続してお客様に知ってもらうことが大切になると考える。</p>	<p>年間を通じて、挿し木を実施、苗木を増やししながら、ホームページやメルカリ等のECサイトを活用し、苗木の販売を実施した。</p>

連携先の企業等の意見または評価

<p>弊社は、どんぐりの苗木（くぬぎ）の栽培し、しいたけの樽木を生産している会社です。今回、オアシスさんよりオリーブの苗木の栽培と販売について相談を受けて支援をさせていただきました。日常の管理等については、令和4度の秋より自走できるようになったと思われる。数も当初より増えてきており、梢枯病や炭疽病などの病気が発生するようになってきました。たくさんの苗木を管理していく上で、日々の仕事は多くないように思われますが、苗木の状態の観察はとても大切になり、病気の兆候のあるものについては他から離すことも大切な仕事となります。挿し木については、弊社としてはあまりしない作業となりますが、今後は、挿し木よりも接ぎ木を学んでいった方がいいと助言を行いました。北陸の地にあった木に接ぎ木することで丈夫な苗をなるとともに、オアシスさんだけの特別な苗をつくることにつながり、商品価値が高まると思われます。一般の業者では手間がかかり実施することが困難なため（オリーブの苗は単価が安い）ため引き続き、事業が継続できるように弊社も応援できればと考えます。</p>

連携先企業名	株式会社RANA	担当者名	山田
--------	----------	------	----

就労継続支援A型事業所におけるスコア表（全体）

事業所名	ワークショップオアシス
住所	金沢市みどり2丁目6番地5
電話番号	076-249-0061

事業所番号	1710104199
管理者名	東谷 康代
対象年度	令和5年度

(I) 労働時間		40 点
①1日の平均労働時間が7時間以上		
②1日の平均労働時間が6時間以上7時間未満		
③1日の平均労働時間が5時間以上6時間未満		
④1日の平均労働時間が4時間30分以上5時間未満		
⑤1日の平均労働時間が4時間以上4時間30分未満	○	
⑥1日の平均労働時間が3時間以上4時間未満		
⑦1日の平均労働時間が2時間以上3時間未満		
⑧1日の平均労働時間が2時間未満		
①80点 ②70点 ③55点 ④45点 ⑤40点 ⑥30点 ⑦20点 ⑧5点		

(II) 生産活動		20 点
①前年度及び前々年度の各年度における生産活動収支がそれぞれ当該各年度に利用者に支払う賃金の総額以上		
②前年度及び前々年度における生産活動収支のうち前年度における生産活動収支のみが利用者に支払う賃金の総額以上	○	
③前年度及び前々年度における生産活動収支のうち前々年度における生産活動収支のみが利用者に支払う賃金の総額以上		
④前年度及び前々年度の各年度における生産活動収支がいずれも当該各年度に利用者に支払う賃金の総額未満		
①40点 ②25点 ③20点 ④5点		

(III) 多様な働き方（※）		35 点
①免許・資格取得、検定の受検奨励に関する制度		
就業規則等で定めている	○	
就業規則等で定めており、前年度の実績がある		
②利用者を職員として登用する制度		
就業規則等で定めている	○	
就業規則等で定めており、前年度の実績がある		
③在宅勤務に係る労働条件及び服務規律		
就業規則等で定めている		
就業規則等で定めており、前年度の実績がある	○	
④フレックスタイム制に係る労働条件		
就業規則等で定めている		
就業規則等で定めており、前年度の実績がある	○	
⑤短時間勤務に係る労働条件		
就業規則等で定めている	○	
就業規則等で定めており、前年度の実績がある		
⑥時差出勤制度に係る労働条件		
就業規則等で定めている		
就業規則等で定めており、前年度の実績がある	○	
⑦有給休暇の時間単位取得又は計画的付与制度		
就業規則等で定めている		
就業規則等で定めており、前年度の実績がある	○	
⑧傷病休暇等の取得に関する事項		
就業規則等で定めている	○	
就業規則等で定めており、前年度の実績がある		
小計（注1）		12

(IV) 支援力向上（※）		35 点
①研修計画に基づいた外部研修会又は内部研修会		
参加した職員が1人以上半数未満であった		
参加した職員が半数以上であった	○	
②研修、学会等又は学会誌等において発表		
1回の場合		
2回以上の場合		
③視察・実習の実施又は受け入れ		
いずれか一方のみの取組を行っている		
いずれの取組もを行っている	○	
④販路拡大の商談会等への参加		
1回の場合		
2回以上の場合	○	
⑤職員の人事評価制度		
人事評価結果に基づき定期的に昇給を判定する制度を設け、全ての職員に周知している	○	
⑥ピアサポーターの配置		
ピアサポーターを職員として配置している		
⑦第三者評価		
過去3年以内の福祉サービス第三者評価を受審しており、結果を公表している。		
⑧国際標準化規格が定めた規格等の認証等		
都道府県知事が適当と認める国際標準化規格が定めた規格その他これに準ずるものの認証を受けている		
小計（注2）		8

（※）任意の5項目を選択すること （注2）8以上:35点、6~7:25点、1~5:15点

(V) 地域連携活動		10 点
地域の事業者と連携した付加価値の高い商品開発、企業や官公庁等での生産活動等地域社会と連携した活動を行い、その結果をインターネット等により公表している	○	
1事例以上ある場合:10点		

項目	点数								
労働時間	5点	20点	30点	40点	45点	55点	70点	80点	40
生産活動	5点		20点		25点		40点		20
多様な働き方	0点		15点		25点		35点		35
支援力向上	0点		15点		25点		35点		35
地域連携活動	0点			10点					10

合計	
140	点 / 200点

（※）任意の5項目を選択すること （注1）8以上:35点、6~7:25点、1~5:15点

就労継続支援 A 型事業所におけるスコア表（実績 I～IV）

(I) 労働時間

前年度（5年度）

雇用契約を締結していた全ての利用者における延べ労働時間	20,007	時間	雇用契約を締結していた延べ利用者数	4,835	人	利用者の1日の平均労働時間数	4.14	時間
-----------------------------	--------	----	-------------------	-------	---	----------------	------	----

(II) 生産活動

会計期間（4月～3月）

前々年度（4年度）

生産活動収入から経費を除いた額	13,750,000	円	利用者に支払った賃金総額	13,058,000	円	収支	692,000	円
-----------------	------------	---	--------------	------------	---	----	---------	---

前年度（5年度）

生産活動収入から経費を除いた額	18,426,000	円	利用者に支払った賃金総額	20,807,000	円	収支	▲ 2,381,000	円
-----------------	------------	---	--------------	------------	---	----	-------------	---

(III) 多様な働き方

前年度（4年度）における実績（全体表「(III) 多様な働き方」の各項目において「就業規則等で定めており、前年度の実績がある」と選択した場合に実績を記載）

①免許・資格取得、検定の受検動奨に関する制度

◎免許・資格取得、検定の受検動奨に関する制度を活用した人数 0名
※取得を進めた免許等：
制度の活用内容：

②利用者を職員として登用する制度

◎職員として登用した人数 2名
◎うち1名は雇用継続期間が6月に達している
◎うち1名は前年度末日まで雇用継続している
※登用した日 令和5年11月10日
勤務形態：非常勤
就業時間：9時00分～16時00分
職務内容：作業員

③在宅勤務に係る労働条件及び服務規律

◎在宅勤務を行った人数 2名
※実施した期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日
就業時間（在宅勤務）：10時00分～15時30分
職務内容：パソコンを使用してのリストの入力作業（電話番号等）DM、チラシ用のイラスト作成

④フレックスタイム制に係る労働条件

◎フレックスタイム制を活用した人数 3名
※実施した期間：令和5年4月1日～3月31日
就業時間（コアタイム）：10時00分～15時00分
職務内容：生活支援員、職業指導員

⑤短時間勤務に係る労働条件

◎短時間勤務に従事した人数 名
※実施した期間：月 日～月 日
就業時間（短時間）：時 分～時 分
職務内容：

⑥時差出勤制度に係る労働条件

◎時差出勤制度を活用した人数 2名
※実施した期間：令和5年4月1日～3月31日
就業時間（早出の場合）：8時00分～17時00分
就業時間（遅出の場合）：11時00分～19時00分
職務内容：職業指導員

⑦有給休暇の時間単位取得又は計画的付与制度

◎時間単位取得を活用した人数 0名
◎計画的付与制度を活用した人数 6名
※取得した制度 有給休暇の時間単位取得
計画的付与制度
取得した期間：4月1日～3月31日
取得日数・時間 5日 0.0時間

⑧傷病休暇等の取得に関する事項

◎傷病休暇等を取得した人数 0名
※取得した内容：
取得した期間：月 日～月 日
就業時間：時 分～時 分
職務内容：

(※)当該制度等を活用した任意の1名の実績を記載

(IV) 支援力向上

前年度（5年度）における実績（全体表「(IV) 支援力向上」の各項目の取組ありとした場合に実績を記載）

①研修計画に基づいた外部研修会又は内部研修会

◎研修計画を策定している
◎研修実施回数 外部 3回/内部 2回
対象職員数 4人
うち研修受講者数 4人
※研修名 サービス管理責任者基礎研修、強度行動障害支援従事者研修 他
研修講師 石川県主催
実施日・受講者数 7月 11日他 4人

②研修、学会等又は学会誌等において発表

◎研修、学会等又は学会誌等において発表している回数 ● 回
※研修、学会等名 ○○○
実施日 ●月●日
※学会誌等名 ○○○
掲載日 ●月●日
発表テーマ ○○○

③視察・実習の実施又は受け入れ

◎先進的事業者の視察・実習の実施している
◎他の事業所の視察・実習を受け入れている
※先進的事業者名 ○○○
実施日/参加者数 ●月●日 ●人
※他の事業所名 ○○○
実施日/参加者数 ●月●日 ●人

④販路拡大の商談会等への参加

◎販路拡大の商談会等への参加回数 2回
※商談会等名 富山県森林組合
主催者名 木材共販
日時 10月 27日 12月15日
内容 オリーブの苗販売

⑤職員の人事評価制度

◎職員の人事評価制度を整備している
◎当該人事評価制度を周知している
人事評価制度の制定日 5年 12月 31日
人事評価制度の対象職員数 5名
うち昇給・昇格を行った者 2名
当該人事評価制度の周知方法 事業所内掲示及び職員研修

⑥ピアサポーターの配置

◎ピアサポーターを配置している
◎当該ピアサポーターは「障害者ピアサポーター研修」を受講している
※配置期間 月 日～月 日
就業時間
職務内容

⑦第三者評価

◎前年度末日から過去3年以内に福祉サービス第三者評価を受けている
※評価を受けた日 月 日
第三者評価機関

⑧国際標準化規格が定めた規格等の認証等

◎国際標準化規格が制定したマネジメント規格等の認証等を受けている
※認証を受けた日 月 日
規格等の内容

(※)実績のうち1事例を記載

各項目について適宜、実績がわかる情報を追加すること。必要に応じて行を増やす等、